

経営比較分析表（令和3年度決算）

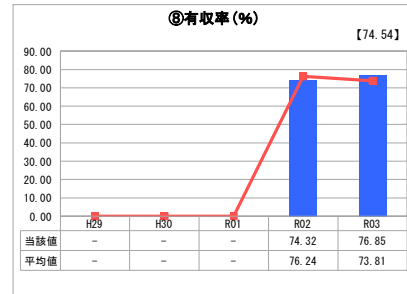
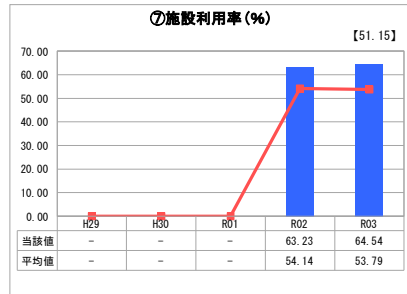
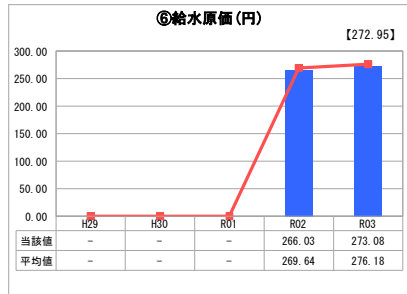
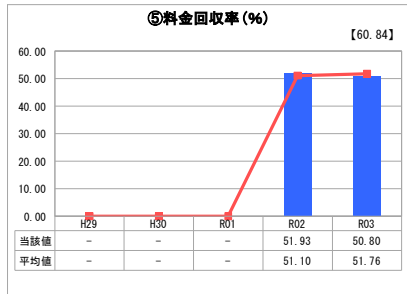
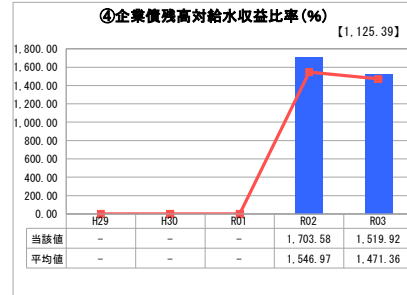
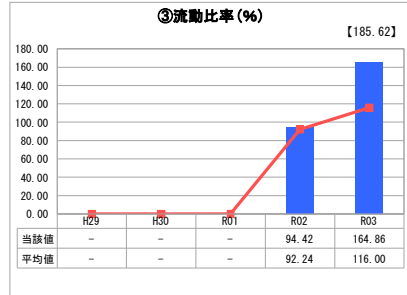
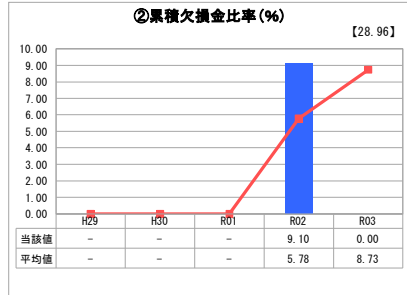
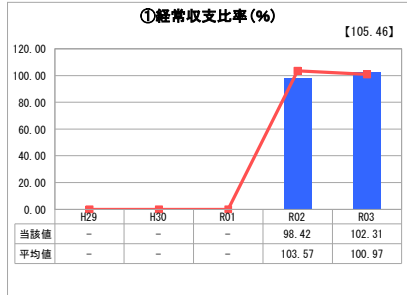
秋田県 八峰町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	47.50	93.94	2,530	

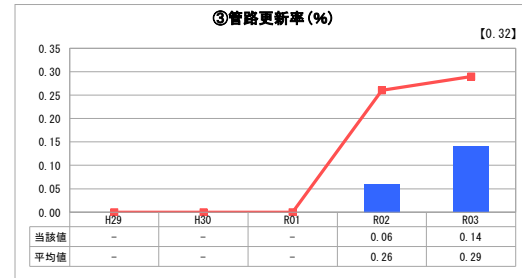
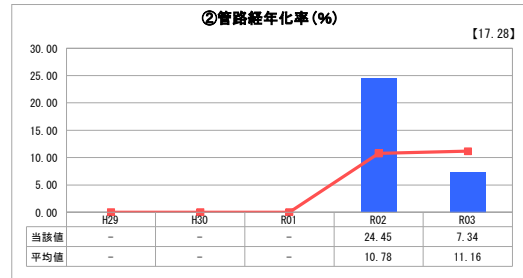
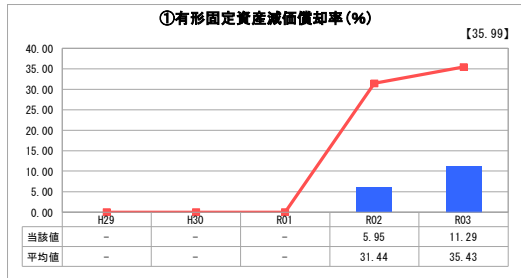
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,693	234.14	28.59
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,203	18.94	327.51

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

1. 経常収支比率は類似団体平均を若干上回り、料金回収率は全国平均を若干下回る結果となった。企業債元利償還金が増加する見込みに伴い数値が悪化することが予想されるため、引き続き、適正な使用料設定で収入を確保することが必要である。
2. 累積欠損金比率は計上が無かった。今後も給水人口が減少する中で維持管理費が増加傾向にあるため、浄水場の集約も視野に入れる必要がある。
3. 流動比率は類似団体平均よりも大きく上回る結果となった。
4. 企業債残高対給水収益比率は、施設整備事業の終了で改善する傾向にある。引き続き、適正な使用料設定で収入を確保するほか、施設更新にあたっては、給水需要を適切に分析し過剰投資となることがないように留意して進める必要がある。
5. 給水原価は、類似団体平均と比較して、若干下回る結果となった。今後も、人口減少等で有収水量が減少し、数値が悪化すると思われるため、維持管理費の節減に努め、原価上昇の抑制に努めていく必要がある。
6. 施設利用率は、類似団体平均と比較して高くなっている。施設更新にあたっては、他施設との統合や、性能のダウンサイジングを図り施設規模の適正化に留意して進める必要がある。
7. 有収率は、前年度よりも改善した。引き続き無収水の原因となる管路補修を適時に行い、有収率の維持に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

平成22年度から実施してきた石綿管の更新事業は平成28年度で終了した。一方、漏水修繕が増加してきている傾向にある。固定資産調査の結果を活用して台帳整備を進めている。整備された台帳に基づき、耐用年数を経過した老朽管の更新計画を策定する予定としており、それまでは適宜対応補修を行っていく。

全体総括

令和2年度から法適用に移行したため、各指標の分析は数年の経過を見ての判断が必要である。今後、企業債元利償還金の増加や給水人口の減少、老朽管の更新等、支出増加が見込まれるため、使用料の見直しを含めた収入の確保対策を講じつつ、維持管理費の節減に努め持続可能な事業経営をめざしていく必要がある。